

第1章

なごや 水の環 (わ) 復活プラン とは

第2章

名古屋 市域 の現況

第3章

なごやの 水循環の 課題

第4章

水の環 (わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章

水の環(わ) 復活に 向けた 取り組み

第6章 推進方策

フォローアップ

資料編

1 地形・地質

名古屋市の地形は、沖積低地、台地、丘陵と西から東に高くなっており、それぞれの地形をつくる地層は堆積した時代がそれぞれちがっています。一般に、高い地形をつくる地層ほどその時代は古くなります。

名古屋市東部の丘陵(名古屋東部丘陵)は、泥層・砂層・機層が交互に重なる地層群からできています。この地層群は第三紀層で、東海層群とよばれます。また、丘陵の西部では礫層からなる第四紀層の唐山層や八事層が、丘陵の上部や頂部をつくっています。

市の中央部にある台地は、南西端にある熱田神宮の名前をとって、熱田台地とよばれています。この熱田台地をつくる地層は第四紀層の熱田層とよばれ、上部は砂層、下部が泥層からできています。この泥層には海に生息する貝の化石などが含まれ、海底に堆積した粘土層となっています。

熱田層の下には、海部・弥富累層と呼ばれる層がありその層付近には第三礫層と呼ばれる地下水を多く含んだ層があります。また、海部・弥富累層の上には第二礫層が、熱田層の上には第一礫層があり、いずれも地下水を多く含んでいます。

なお、熱田台地の中部には、やや低い場所が南北に延びています。ここには大曽根層とよばれる砂礫層がうすく広がっています。

市の北・西・南部に広がる沖積低地(沖積平野)は、沖積層とよばれるまだ締め固まっていない軟弱な地層からできています。沖積層は、上部が砂層からなり、下部は粘土層です。 沖積低地では、沖積層の下に、上に述べた熱田層やさらに古い地層群が重なっています。

用語解説

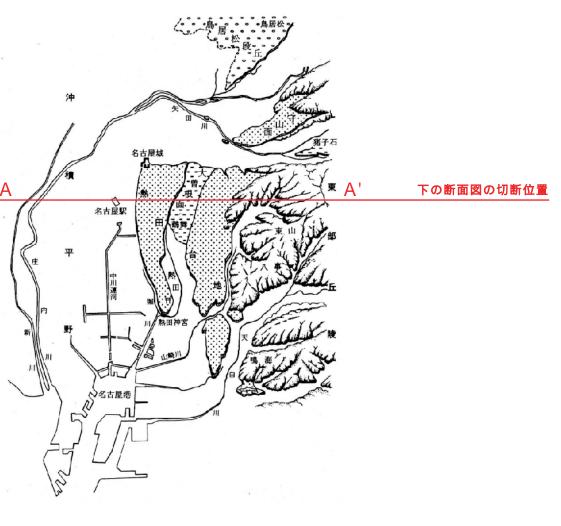
礫(れき)層:粒径2mm以上の小石(礫)によってできた地層で、水を通しやすい。

第三紀層:約6400万年前から約170万年前の間にできた地層。

第四紀層:約170万年前から現代の間にできた地層。

沖積(ちゅうせき)層:第四紀に入ってできた地層で、主に砂層や粘土層などでできていて、 軟弱

地盤である。



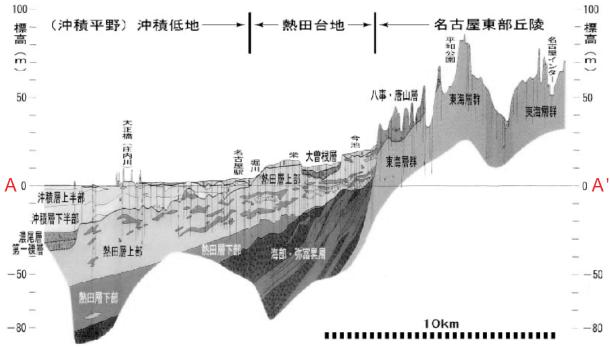


図 2-1 名古屋の地形・地質

(出典:土質工学会中部支部編著 最新名古屋地盤図ほか)

第1章

なごや 水の環 (わ) 復活プラン とは

第2章

名古屋 市域 の現況

第3章

なごやの 水循環の 課題

第4章

水の環(わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章 水の環(わ)

復活に 向けた 取り組み

第6章 推進方策

フォロー アップ

資料編

第1章 なごや 水の環(わ) 復活プラン とは

第2章 名古屋 市域 の現況

第3章 なごやの水循環の課題

第4章 水の環(わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章 水の環(わ) 復活に 向けた 取り組み

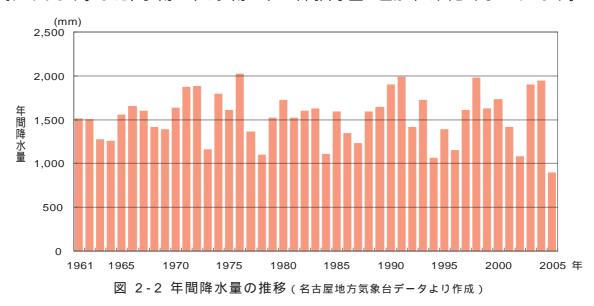
第6章 推進方策 ・ フォロー アップ

資料編

2 気候

(1) 降水量

名古屋における年間降水量は約1,500mmで推移しており、長期的に見ると緩やかな減少傾向にあります。また、多雨の年と少雨の年の年間降水量の差が年々大きくなっています。



(2) 気温・湿度

平成17年(2005年)の平均気温は15.7 であり、名古屋に観測所が設置された明治23年(1890年)以降の記録の推移を見ると、地球的な規模といわれる温暖化傾向を名古屋の観測記録からも読み取れます。一方、平成17年の年平均湿度は66%であり、こちらは低下傾向がみられます。(図2-3-1)

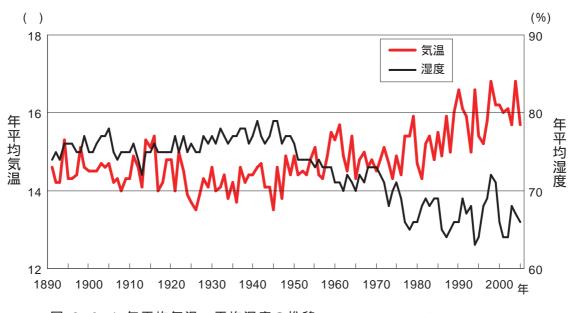
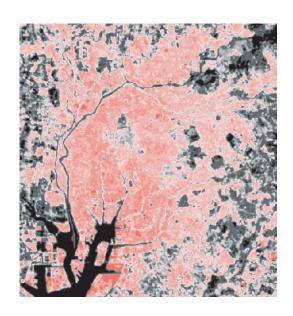


図 2-3-1 年平均気温・平均湿度の推移(名古屋地方気象台データより作成)



都市化が進んだ現在は、都市内部から多くの熱が排出されています。都市は熱の蓄積されやすいコンクリート等により、建築物や道路が占められています。そのため都市部の気温が郊外に比べ上昇するヒートアイランド現象が起こっています。(図2-3-2)

平成17年8月に「名古屋気温測定調査実行委員会」が全市域でいっせいに「名古屋気温測定調査」を行いました。その結果、都心部は気温が高く、東山公園などのまとまった緑がある地域では、周りに比べて気温が低くなっていました。(図2-3-3)

図 2-3-2 地表面温度分布 (平成16年8月13日) (NAGOYAうちみず発見伝(国土交通省中部地方整備局中部技術事務所)より作成)

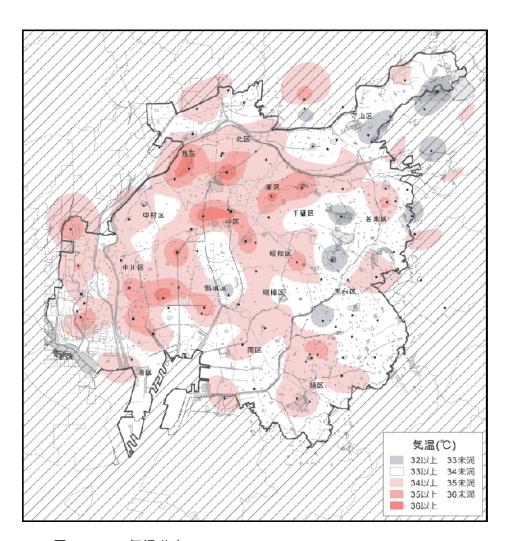


図 2-3-3 気温分布 (平成17年8月7日15時) (名古屋気温測定調査実行委員会測定データより作成)

第1章 なごや 水の環(わ) 復活プラン

とは

第2章

の現況

第3章 なごやの 水循環の 課題

第4章 水の環(わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章 水の環(わ) 復活に 向けた 取り組み

第6章 推進方策 ・ フォロー アップ

資料編

第 1 章 なごや 水の環(わ) 復活プラン

とは

第2章 名古屋 市域 の現況

第3章 なごやの 水循環の 課題

第4章 水の環(わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章 水の環(わ) 復活に 向けた 取り組み

第6章 推進方策 ・ フォロー アップ

資料編

3 土地利用

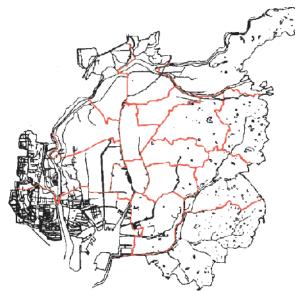
(1) 水域の変遷

名古屋市内に存在する水域が、過去から現在にかけてどのように推移しているかを整理しました。

【明治から大正】

名古屋市の東部では多くのため池が確認できます。また、西部(現在の港区、中川区付近)で農業用水路の整備が進んだ時期であり、水路が多くみられます。

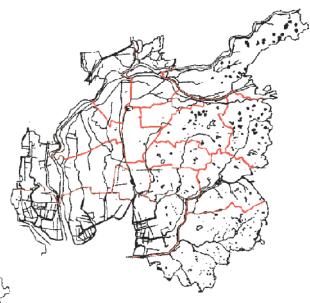
図 2-4-1 明治24年(1891年)の水域 赤色は現在の区境



【昭和60年(1985年)頃から現在】

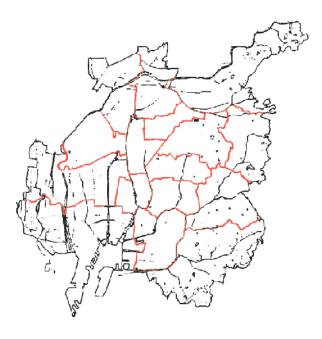
都市化が進んだことから、市の東部に みられたため池は少なくなりました。ま た、西部にみられた水路も数が少なくな るなど、全体として、水域面積は大幅に 減少しました。

図 2-4-3 平成11年前後の水域



【昭和初期から昭和35年(1960年)頃】 名古屋市の東部にみられたため池の数 が徐々に少なくなってきています。一方 で、西部の水路は増える傾向にありま す。

図 2-4-2 昭和30年代前半の水域



(2) 土地利用の変遷

昭和35年(1960年)から平成12年(2000年)までの名古屋市の土地利用形態の変遷をみると、 宅地の面積が最も増加しており、平成12年には全体に占める割合が55%となっています。また、舗装道路の面積も増加し、平成12年には16.2%と高い値になっています。このように、 被覆されて水がしみこみにくい土地が拡大する一方で、田や畑、山林や原野などは、縮小の 傾向を示しています。

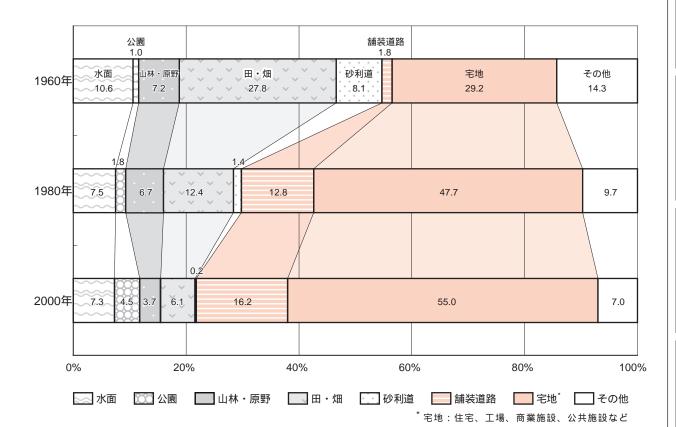


図 2-5 土地利用の変遷(名古屋市総務局統計課資料より作成)

第1章 なごや 水の環(わ) 復活プラン とは

第2章

名古屋 市域 の現況

第3章なごやの水循環の課題

第4章 水の環(わ) 復活プラン の理念と めざす姿

第5章 水の環(わ) 復活に 向けた 取り組み

第6章 推進方策 ・ フォロー アップ

資料編